社会言語科学会　原稿執筆要項：ワークショップ・グループ用

－副題－

企画責任者：氏名１(所属１)

役割１：氏名２(所属２)　氏名３(所属３)

役割２：氏名４(所属４)

1. はじめに

本稿では社会言語科学会大会発表論文の執筆要項について説明する．原稿を執筆する前に必ず目を通すこと．本稿はこの執筆要項に従って書かれている．執筆の参考にして欲しい．

注意：締切後の修正・変更は,一切できません．内容等を十分に確認した上でご提出ください.

1. ページ設定

 ページの設定を以下に示す．

* Ａ４用紙縦置き横書き，１段組，10頁以内．
* マージン：上20mm，下30mm，左右横18mm．
* 頁数は印字しない．
* 文字のサイズは10ポイントから12ポイントを目安とする．字数・行数などは自由．

注意：10頁を超過している原稿は受理されません．

1. タイトル部
* １ページ目上部に，タイトル，著者氏名，所属を書く．[[1]](#footnote-1)
* 副題は和文の場合は前後に全角「－(ダッシュ)」．
* フォント・サイズ・配置：
	+ - タイトル：ゴシック体，14 ポイント，センタリング．
* 氏名・所属：明朝体，10 ポイント，右詰め．
* 参加者の役割は「話題提供者」「討論者」など企画者が適宜設定し，「役割1」「役割2」と書かれたところに

　記す．役割は複数あっても構わない．役割の順序も自由．

* タイトルと氏名(所属)の間は１行(14ポイント)，氏名と本文の間は２行(10ポイント)あける．
* 氏名の書き方：
* 旧姓（または新姓）を併記したい場合は「学術上の通用姓（それ以外の姓）」とする．
* 所属の書き方：
* 原則として，一律に○○大学，○○研究所のように機関名までとし（学振PDを含む），学部・大学院・センター・研究所等の部局の記載はしない.
* 学生は所属先を「○○大学大学院生」「○○大学大学院研究生」「○○大学学部生」とする.
* 日本学術振興会特別研究員に採用されている場合は，DCは「（所属）／日本学術振興会」，PDは「日本学術振興会／（所属）」と記載する.
* 教職員等の場合，職位や専任・非常勤の区別は示さない.
* 所属がない場合，「無所属」とする.

注意：タイトルと発表者名は，表記の仕方も含めて発表申込時と完全に同じでなければなりません．相違がある場合には，原稿は受理されません．

1. 本文
* 句読点は全角の「，」「．」とする．
* 本文の中で章分けする場合，章は「1．」「2．」，それ以下は「1.1」「1.2」のようにする．
* 図・表
* 図表はそれぞれに一連の番号を付け，さらに題名(キャプション)を付ける．
* 番号及び題名は，図の場合は図の下に，表の場合は表の上に付ける．
* 注
* 注は原則として各ページの末尾に入れる「脚注」を推奨する．
* 注が複数ある場合は通し番号を付ける．
1. 参考文献の書き方
	1. 本文中での参考文献の引用

本文中での参考文献の引用は，以下を参考に行なう．

* 竹内(1982)によれば…
* 安田・海野(1977)によれば…
* 芳賀(1963; 1988)によれば…
* Spitzberg & Cupach(1984)はこの問題に関し…
* …ということが指摘されている(竹内, 1992)．
* …であると言われている(竹内, 1982; 芳賀, 1963)．
	1. 参考文献リスト
* 参考文献リストは本文の次に配置．
* タイトルはゴシック体で｢参考文献｣とする．
* 和文・欧文文献に分けずアルファベット順に配列．
1. 謝辞について
* 謝辞を書く場合には本文と参考文献の間に入れる．

謝辞　本稿の執筆にあたって××氏から有益なコメントを頂いた．ここに感謝する．

参考文献

芳賀純 (1963). 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造の比較研究 教育心理学研究, 11, 33-42.

芳賀純 (1988). 言語心理学入門 有斐閣

橋元良明(編) (2005). 講座社会言語科学2 メディア ひつじ書房

渋谷勝己 (2000). 徳川学の流れ―方言学から社会言語学へ― 社会言語科学, 2(2), 2-10.

Spitzberg, B. H., & Cupach, W. R. (1984).
*Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.

竹内郁郎 (1982). 受容過程の研究 竹内郁郎・児島和人(編) 現代マスコミュニケーション論 有斐閣pp.44－79．

安田三郎・海野道郎 (1977). 社会統計学 改訂2版 丸善

1. 著者が複数の場合は，1行に複数名記入してもよい. 1行に入らない場合は適宜改行する. [↑](#footnote-ref-1)